

AI 戦略会議の今後の課題（案）

AI 戦略会議座長

1. AI のガバナンス・規制のあり方

（事業者ガイドラインの履行確保等）

- 事業者ガイドラインの履行確保のための方策について、米国や EU 等の国際的な動きも踏まえ、制度整備を含めて、具体的に検討してはどうか。
- その際、個別の規制において AI 利用が認められる基準を明確化することで AI の利用が促進されるという観点にも留意が必要ではないか。
- 最先端の基盤モデルや生成 AI など高度 AI システムの安全性に関して、国際的なガバナンスや情報交換の枠組みが必要ではないか。
- 高度 AI システムや大規模に使用される AI について、欧米の制度整備との整合性も踏まえつつ、安全性等に関する情報開示の仕組みや、AI 提供者や利用者に対する適切な情報提供など、透明性を確保するための仕組みが必要ではないか。

（偽情報対策）

- AI 利用により巧妙化、増加するおそれのある偽情報対策を強化すべきではないか。例えば、コンテンツ認証・来歴管理技術等の新たな技術の開発・導入の促進策や、欧州で議論されている AI 作成コンテンツの明示義務やデジタルプロバイダーの役割について検討してはどうか。

（広島 AI プロセスの更なる前進等）

- 広島 AI プロセスの成果を G 7 以外の国に幅広く拡大していくことが重要。
- グローバルサウスは先進国主体の AI 開発競争から取り残されることを懸念しており、日本が AI ガバナンスやデータ利用、人材育成・AI リテラシーの向上等の分野でリーダーシップをとる必要があるのではないか。

2. 我が国の高度 AI システムの競争力確保

- AI 開発力の強化のため、計算資源の確保やデータ活用には引き続き取り組むとともに、我が国の高度 AI システム（基盤モデル等）の開発やスタートアップ含めた幅広い組織に対する投資・環境整備などの競争力確保の道筋を検討すべきではないか。
- その際、例えば、以下のような AI 技術やビジネスの動向を踏まえて検討してはどうか。
 - ・各分野でファインチューニング等によって様々なモデルが実用化される可能性や、全く新たなアルゴリズムのモデルが開発される可能性
 - ・オープンソースの AI に関する、安全性、技術革新、競争政策等の観点からの議論

3. AI の利用促進

- 日本の企業等における AI 導入は、米国等に比べて進んでいないといった調査結果がある。DX と相まって AI 導入を進め、中堅・中小企業等の生産性向上・人手不足解消等を進めることが重要ではないか。
- 医療、金融、製薬、マテリアル、ロボット、モビリティ等の重要分野における AI 利用を如何に促進していくか。こうした AI の利用促進が競争力強化策にもつながっていくのではないか。
- 産業用データを活用して AI 学習を行うことで、当該産業に適した AI の利用の促進を図ってはどうか。
- AI の利用の促進のためには、個別のニーズに適した AI アプリ開発が重要。こうした AI アプリ開発を担うスタートアップとユーザーである大企業等との連携・協業や成果連動型民間委託契約方式の活用など新たなエコシステムが必要ではないか。
- AI によって、人が担うべき創意工夫や創造（クリエイティブ）の概念が変わる可能性がある。そのことが産業や社会に与える影響をどう考えるか。
- 教育分野における生成 AI の活用の可能性や人材育成・AI リテラシー向上等についての更なる検討が必要ではないか。